



ひらほく新聞

発行所 読売センター平塚北部 (ひらほく) 山本 直 〒254-0013 神奈川県平塚市田村9-4-32 電話 0463-54-2807

「ひらほく新聞」で検索!
★感謝で継続12年目に突入★
<http://www.hirahoku.com/>
☆ぜひ、バックナンバーをどうぞ!



齋藤一人さんの久々の書き下ろし、『私には私』をご紹介します。「私は私」とは、単に個人を区別する言葉ではなく、「自分らしい愛」「自分だけが出せる本物の愛」という意味。ただ、個性を出せばいいわけではなく、個性に愛をのせ、あなただけの豊かな愛の表現をすること。すでにこの地球は、自由で楽しい、軽やかな時代に入っている。窮屈な生き方は卒業し、それぞれが好きな道へ進める「ふわふわ」な時代。そのなかで一番大事な「愛」のメッセージとは？ 有難く拔萃、ご紹介します。

個性とは

あらゆる万物に個性があるように、人間にも個性がある。個性があるどころか、個性の塊だ。全員に共通しているのは「人間」という分類だけで、それ以外に共通しているところはなく、同じところはひとつもない。「十人十色」というが、似たような感覚の人はいても、同じことは絶対ない。人はみんな、オリジナルの個性を持っている。そんな個性の塊だからこそ、人間はお互いに支え合える。それぞれのニーズに答え、誰もが人の力になれる喜びを感じられる。足りないことを補い合って、この地球はより豊かに、効率的に発展してきた。

「原石」を磨く

一人さんだつて欠点は山ほどある。ただ、それを欠点とは思ってはいなくて、どれも自分の宝物だと思っている。その宝物のおかげで納税日本一にもなった。どんな欠点にしか思えないような要素でも、それは間違いないくあなただけの宝物で、すべてあなたの素敵な個性。どんな外見、性格だろうが、あなたにしか持てない、この宇宙にたったひとつの原石だ。いまだ磨き足りていない「原石」なだけで、磨けば物凄い輝きを放つようになる。嫌な個性ほど、磨き上げることで「どこにもない自分らしさ」に変わる。個性とは一生の付き合い。逃げたら苦しめられるから、磨き上げて最後の個性に変えたほうがいい。

自分を好きに

他の人と自分を比べず、ありのままの自分で勝負すればよい。でも自分の個性を宝物と思えなければ「私は私」と思えなくなる。いまの自分でいいという安心感がないと誰かと比べては落ち込み、自分に絶望するだけ。そういう人はまずひとつ、自分のダメなところをゆるしてみる。自分を無理にねじ曲げようとせず「それでもいいよね」って自分を認めてあげる。苦しさとは、あなたの魂の「もっと自分を好きになつてよ!」という愛に飢えた叫び声。それに気づかず自分を責めるから、ますます苦しく、生きづらいくなる。試しに一度、自分に愛情を注いでみてほしい。驚くほど、生きることが楽になる。そして、ちよつとでも自分を好きになれたら、個性磨きに拍車がかかる。

愛の井戸

思うようにならない子ども、パートナー、部下、上司...そんな「変えたい相手」に思い悩む人は多い。だが、いくら愛の力があっても、自分の思い通りにしようとしてはならない。そして、絶対に思い通りにはならない。本物の愛で変えられるのは、自分だけだ。変わりたいなら子どもは自分で愛を出すしかない。パートナーでも部下、上司でも自分自身で変わることを望み、自分で愛を出して初めて変わることができる。神様は一人にひとつずつ愛の井戸を用意してくれている。愛の井戸水はあなただけのもの、よその井戸から水を汲まなくても、自分の井戸水を汲めばいい。子どもの井戸は子ども専用、勝手に水を足したり、抜いたりしてはいけない。つまり、自分の愛は、自分の魂を成長させることしかできない。誰かを変えるために使うものではなく、自分を愛えることにしか使えないということ。

ふわふわ軽やか

一人さん的には、「意志」とは強いとか、固いものではなく、一瞬で形を変える雲のように、ふわふわで柔らかく、軽やかなもの。自分にも他の人にも自由をゆるすのが愛だから、誰でも自分の意志で自由にしたいことをすればよい。挑戦してダメなら、やめるのもまた、自由な意志。誰に対してもそんな自由を認められたら、自分も相手も気が楽になるし、優しい気持ちになれる。

一人さんはもちろんお金が好き。そしてお金と同じくらい自分のことも好きだし、仲間のこともすぐ大切。愛もお金もどちらも同じくらい必要だ。なぜなら、大切な自分を楽しませるのにお金はあつたほうがいいし、愛する人を喜ばせるために使うこともできる。幸せになりたいと思うんだつたら、やはりお金は必要、愛も必要。同じくらいあれば、毎日が楽しく充実、人生もとても豊かになる。

愛もお金も両方

「ふわふわ」という言葉が、まさにこれからの時代を象徴している。「ふわふわ」という言葉の力が心が軽くなり、大きなエネルギーがうまれる。物事は深刻に考えても、うまくいかない。だから、大きなトラブル、問題の時に、心「ふわふわ」にして考えること。それで必ずいい結果につながる。これからの時代は、そんな心の軽さがますます求められる。軽い波動の勢いがどんどん増しているからこそ、「ふわふわ」という言葉に強力なエネルギーが宿ってきている。この、魂もグッと成熟度が増すタイミングに愛を大きく育てると、「ふわふわ」の波に乗って人生も急展開する。

それなら「愛もお金も両方欲しい」とストレートに望めばいい、望むべきだ。欲張りという言葉の人がいるが、人間は欲があるから、頑張れるし、成長できる。欲があるということは、それが必要だから神様が授けてくれた。その欲を押さえてつけていいわけではない。お金が欲しいと思えば、知恵を出して仕事に励む。ガンガン稼ごうと思ったら、勝手に魅力がつくし、魂も成長する。そこに自分らしい愛が出てくれば、みんなを笑顔にする仕事で大成功するかもしれない。

魅力とは、自分らしい愛を出すことで生まれる。その愛は、あなたの個性を磨き上げることでも育まれる。魅力を活かすも殺すも、全部あなたの「思い」しだい。

五黄の寅

2022年は、十二支と九星術の組み合わせの中で最も運氣が強い36年に一度の「五黄の寅」年。

12月号でご紹介の心理力ウンセラーマサさん曰く、もの凄いパワーがやってくる最強の運勢の年で、特に金運がアップする年。

千支でも「壬寅」、水が流れるがごとく、金回りがよくなるという。いかにしてその大きなエネルギーの波に乗っていくのか、2022年から人生を激変させた人が大切にすべき3つのことを教えてくれている。

①何といつても『言霊』シンプルだが、こんなに効果的な願望実現法はない。「ありがとう」「ついでに」「なんとかなる」などの基本の言霊を唱えることはそのまま継続し、そのうえで自分の心境に合った言霊を選んで唱える。特に五黄の寅なのでお金に関する言霊をできるだけ沢山唱える。「臨時収入毎月10万円」「月収50万」等、具体的な数字も大事。「宝くじ当選」「お金がザクザク入ってくる」など、ゲーム感覚で楽しみながら続けていく。

②心地のいい人間関係
チャンスは人から運ばれてくるのがほとんどなので嫌な人間関係、苦手な人間

関係を手放して、自分にとって心地いい人間関係を徹底的に大切にしていこう。

③何個でも夢や願望を紙に書き出して決める

今までは無理かなと思っていただけでも、五黄の寅の勢いのある運勢で叶ってしまふことも多いはず。年末のチェックをお楽しみに。

言霊を唱える秘訣

言霊どおりの出来事、現象が起きる、特に起こりやすい最強運気の五黄の寅年に便乗して「自分の起こしたい現象の言霊を唱えていく」うえで、重要なのは、

①その奇跡が起こることをワクワク確信して唱えること。信じられず疑ってしまうと、逆効果になる。
②有言実行して、魂と仲良くなる。「水を飲む」と言ってから水を飲む。「トイレに行く」と言ってからトイレに行く、など言霊の有言実行を習慣化すること。

実践読書術

YouTubeの「本要約チャンネル」を運営している、「たけみどりよう」さんが書籍『「読む」だけで終わりにしない読書術』を出版。「一万冊読んでわかった本に当に人生を変える方法」という内容によると、「人生の質は「読書」で決まる。

本は多くのことを叶えてくれるが、読むだけでは知識が増えるだけで、何も変わらない。やるべきことはたった一つ。本を読み、実践すること」だという。

健康、ビジネス、お金とさまざまなジャンルの本を1万冊以上読み、数々のメソッドを実践。実際に3年ほど前から毎日、朝起きてから夜寝るまで、実践しているすべてのメソッドの記録と検証を細かく継続しているという。これを「レコーディング読書」といって、「いつ、どのような状況で、どのメソッドを実践したか」「それによってどのような効果が得られたか」を記録したメモこそが、キモ。

重要箇所を線を引いたり、書き出したり、またまとめてアウトプットする。となどのみならず、自ら実践・検証・記録、その重要性は、目からウロコだった。

他にいくつか紹介されていた読書術のなかで、興味深かったのは、本を読む前に5分間のランニングをする「ランニング読書」。

1万冊以上読破し、集中力を高める数々のメソッドを実践した結果、最強の方法は、「5分間の軽いランニング」だった。仕事に

に「挟む適度な運動は、集中力、記憶力、意志力アップ等の強力な武器だ」という。

我が実践「言霊」

■当紙先月12月号でご紹介の言霊書籍に出会い、昨年11月末から、数年ぶりに「ありがとう」1000回ワウを継続中。さらに、五黄の寅年に入り、齋藤一人さんの「愛とお金」の教えも有難くいただき、次のような言霊も唱えています。よい検証結果を報告できるよに楽しく顔晴ります。

ありえない奇跡が起る

愛とお金がふわふわザクザク入ってくる

フワフワ笑顔の〇〇さん、

ありがとう

（〇〇は自分の名前、自分の名前はとっておきの最強言霊）
■ちなみに、齋藤一人著「一日二語三六六のメッセージ令和編」で、自分の誕生日、2月11日は、ファンの方から次のような推薦で「絶対なんとかなる」でした。

「私は精神病を患っています。さらに、事件の被害や問題で苦しみまくってきまして。なんとかなる」を知

るまでは七転八倒してました。それがなんと「なんとかなる」で、七転八起きしました！難病認定されるかもしれない統合感情障害が

治まり、精神科の医師には、治った秘訣を質問されるほど。それほど病気がよくなっています。年に2回の入院も取りやめに。金銭的にも余裕が生まれ、絶対ゆるせない人をあつという間にゆるすことも。なんとかなるで、いつも神さまからアドバイスをいただいています。なんとかなるの言霊は最高の親友になりました。」

絶対なんとかなる

■最後に、以前新小岩の齋藤一人さんファンの集まるお店に伺った際に教わった言霊をアレンジしたものを。

天之御中主様

天照大神様

猿田彦様

鹿島様

香取様

〇〇様 〇〇様

お助けいただきましてありがとうございます

天之御中主様お助けいただきましてありがとうございます

のみで一般的に多く使われています。自分は〇〇様に産土神様（出生地の神様）と自宅と会社の氏神様を入れています。

※今月号でも「神様」という表現が多く出てきますが、特定の宗教とは関係ありません。一人さんがよく言われる「信じたい人は信じればよい」お話です。

皇紀二六八二年

本年令和4年は、皇紀2682年。「建国記念の日」『「紀元節」生まれの自分、山本は、今年もこの重要な話題をお伝えしたい。

紀元前660年2月11日に神武天皇が日本を建国したといわれている。その「日本のストーリー」がアメリカの中学1年生の教科書には詳しく書かれているが、日本の教科書には一切載っていない。戦前、戦中までは、「国史」として書いてあったが、戦後、GHQが、国史の授業の即時停止命令を出し、日本の子どもたちが自分の国の始まりについて知る機会がなくなった。

世界にはいまだに戦争が絶えない現実がある。神話に込められた「争いによって作る世界ではなく、みんなが仲良く話し合いながら平和な世界を作ろう」という大切な思い。「相手のために役立ちたい」という気持ちを持つ日本人。

神話に込められた思いをしっかりと読み取り、つないでいく子孫の責任。国連加盟の193か国のうち、自国の建国の歴史を学校で教えられていないのは日本だけだという。大事に伝えていくために、大人も含め、日本という国の始まりについて、自ら学ぶ機会を持つてほしいと切に願う。

編集後記

1月号で習慣スキルをご紹介したが、つながる話題として、最近、目標達成の極意に出会った。明確な大目標と、そのための中小の目標設定。そして、実践のための時間管理がキモ。

まず現在の自身の行動を詳細に把握。その中から、「やらないことを明確に決める」ことが最重要。不要な時間を断捨離して、やるべき一点に全集中するという内容。参考にしたい。

コロナや地震等々、悩ましいことが続く昨今に、「愛」のメッセージの記事はいかがなものか……。しかし、今月お伝えしたかったのは、だからこそである。自分という存在を信じ、ゆるして、心より愛する（我が日本国に対しても同様）。もし、自分が疲れたり、ケガをしたら、みな自らケアをすると思う。それは自分を愛しているということ。

東大受験の会場で、あの高校生はなぜ、人を巻き込んで死のうとしたのか。「自分を愛している」と自覚をすることで、大切な愛に気づいてほしい。

競争社会、和の愛より個の愛。無意識レベルにまでも偏ってしまつた現代をいかに修正するか。コロナが我々人間を試している。

